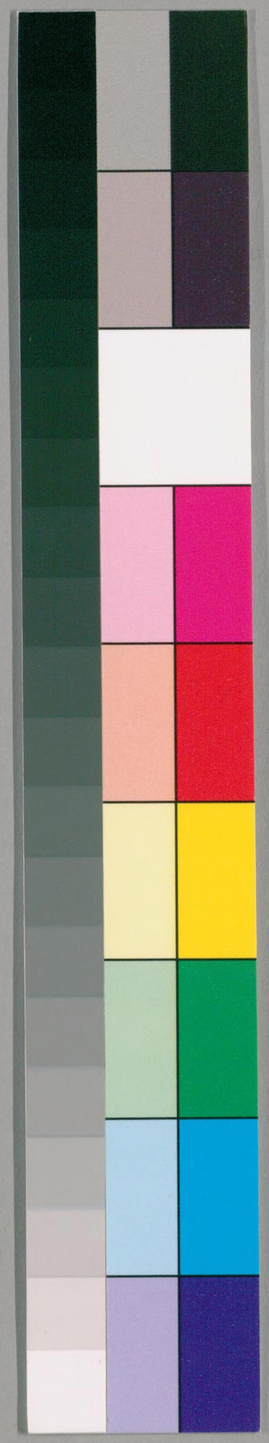
丑
6
19



国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

阿波志

毛西邨

九.

丑
12
19

東京圖書館

門	類	函	架	號	冊
一		丑	一	一九	一二

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

阿波志 巻之九目録

名西郡

圖

建置沿革

郷名

村里

土田

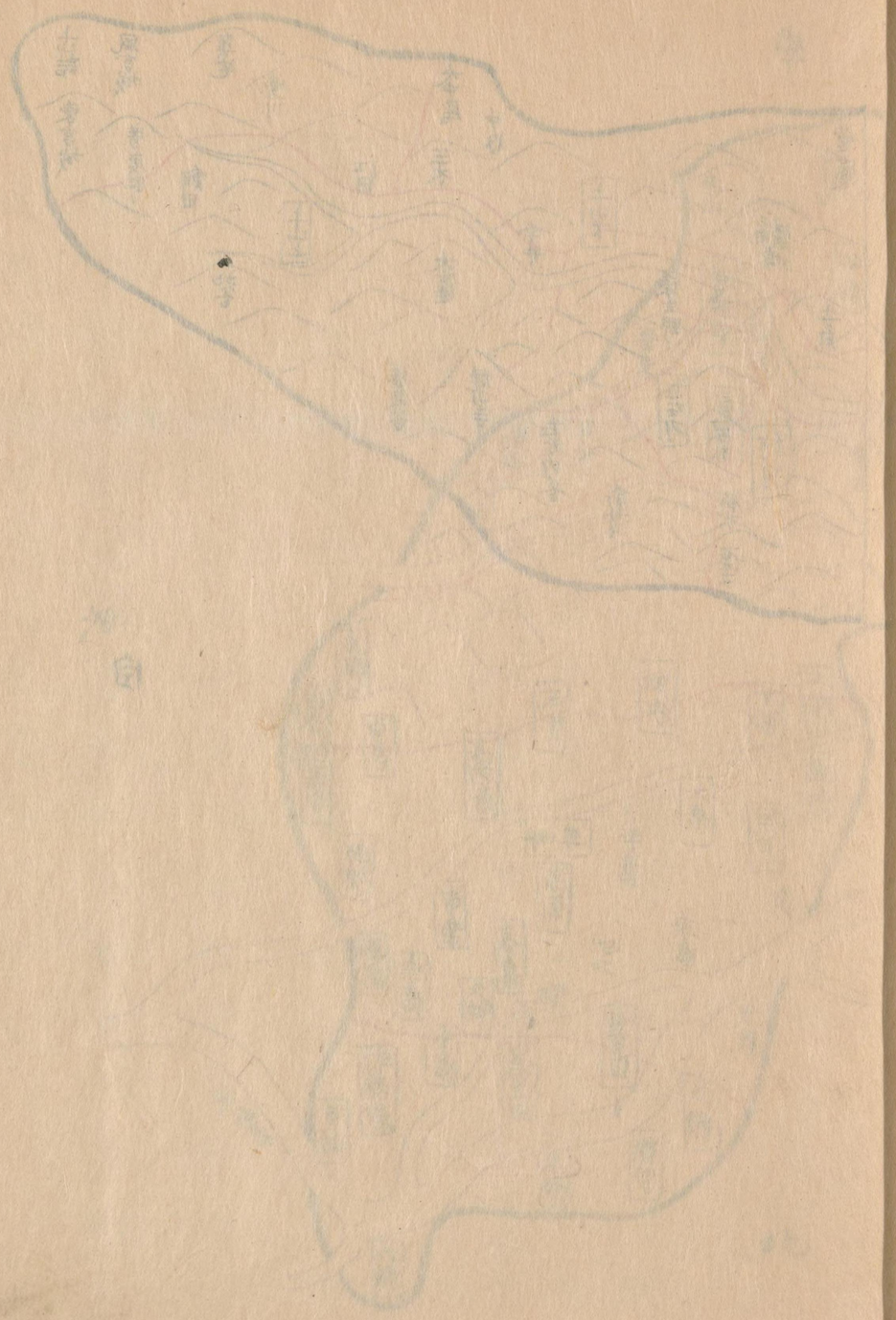
租税

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

戸口
山川
関梁
土産
祠廟
佛刹
古蹟
塚墓
氏族
文苑

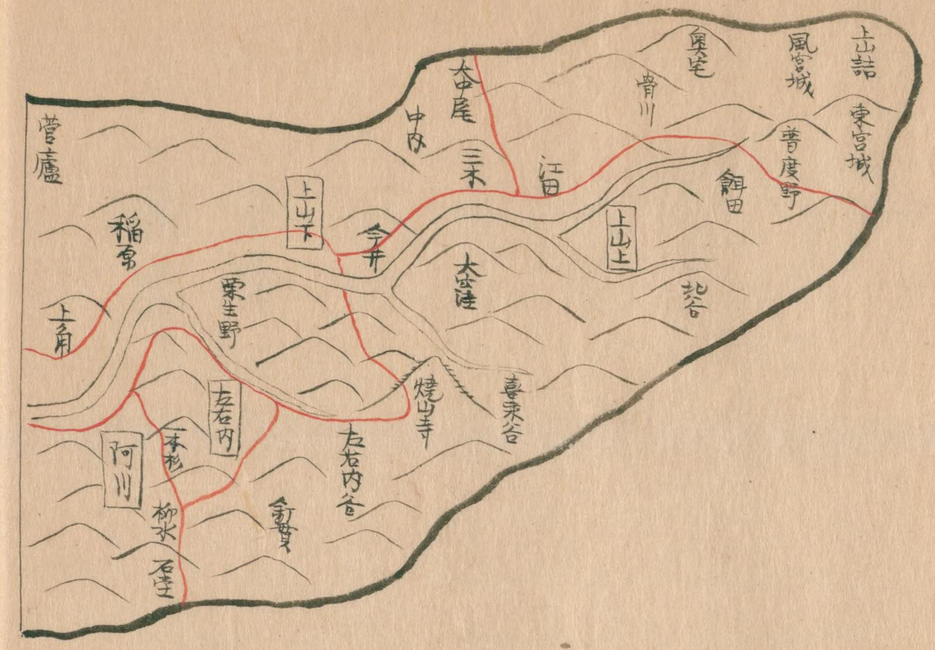
国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

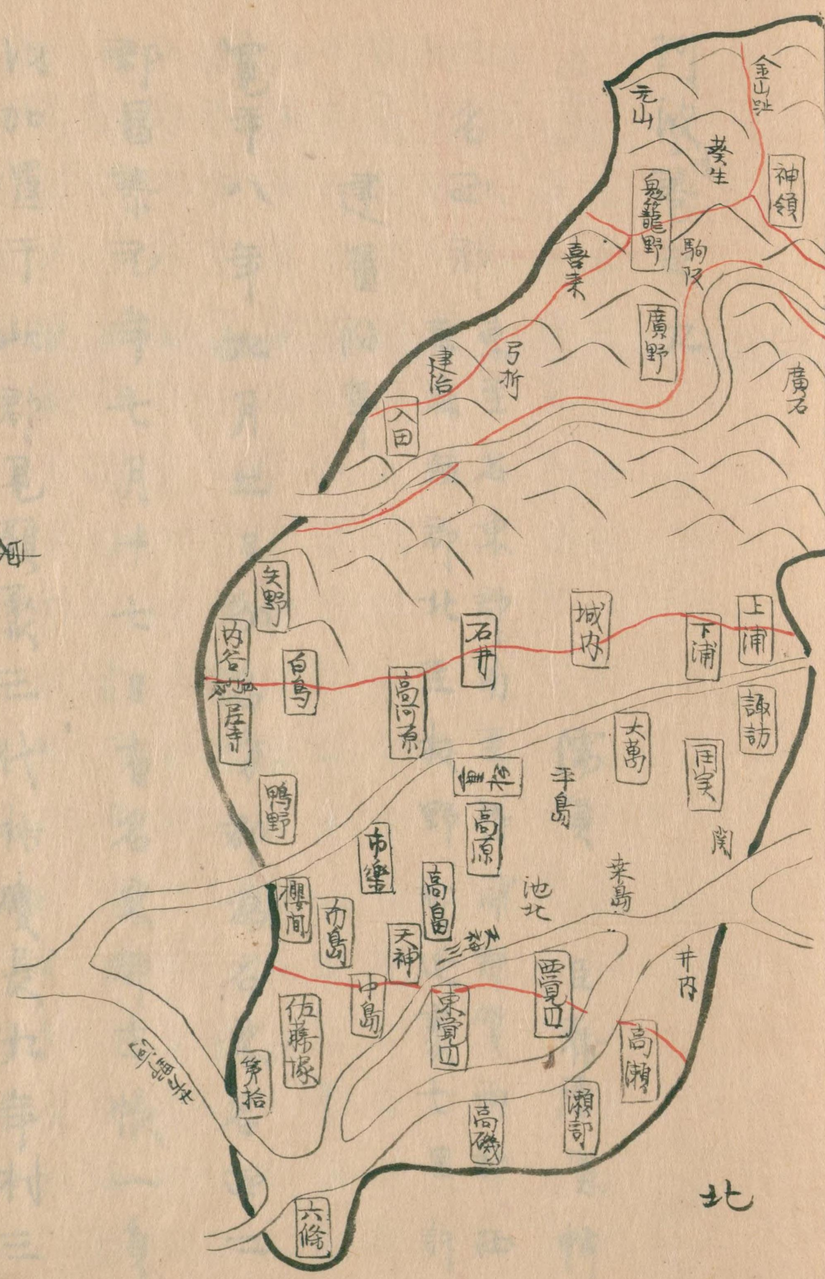


国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

名西郡図





国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

阿波志　巻之九

名西郡　東至名東郡、南至勝浦那賀両郡、西至板野郡、廻袤七里許、

儒員　臣藤原憲輯

建置沿革

寛平八年九月廿日、分名方郡為名東名西二郡、昌泰元年七月十七日、以加置于此郡、見類聚三代格、慶長九年村三十七、元禄中三十九、今復為三十七、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

郷名

埴土　今屬神領入田、谷此、蓋入者、埴生之轉也、

垂仁天皇時、野見宿祢請而停殉、使土工三百人、作塑像以代、天皇喜賜姓土師、其裔宇庭為阿波守、蓋所以卿名目起也、高尾　今屬大村

磯村存

櫻間村存

村里

上山　上、名二十五、

中尾、日奥、名二十六、

谷口、日背川、日

金泉、日中津、日大地、日大影、日野保、日路、日阪丸、日

入手、日有瀬、日川又、日門屋、日一宇、訓曰主岩、日

日裏荷手、日西久地、日中宗、日本日石本下、名二十四、日地野、日栗生野、日

右山、日三木、日今井、日大窪、日寺口、日水船、日西大戸、日中内、日吳石、日

宇井、日喜来、日薗、日焼山、日早府、日櫛谷、日

長野、日中谷、日西、日名本、日

左右内　名十一、

日鶏岩、日馬ヒ、日南峯、日檜倉、日

荘期、日渡内、日新貫、日杜、

阿川　名十八、日駒阪、日井原、日阿川、日

船底、日神祇、日地手、日

廣見、日下阿内、日

上河内、曰廣石、曰細尾、曰空
木、曰不中、曰佐手、曰長代
神領、曰名、曰青井夫、曰上角、曰小野、曰大窪、
鬼籠野、名九、曰元山、曰阿保、曰市原、曰本、曰
喜来、曰日裏、曰黒川、曰迫瀬川、曰一反、
廣野、名二十一、曰貴瀬、曰須賀、曰馬地、曰地野、
方子、曰行者野、曰長谷、曰中地、曰離川、曰臼杵、曰
瀬、曰田窪、曰宮長瀬、曰持助、曰廣野、曰五段地、曰長
倉、曰折木、曰中宝、曰
目、
入田
上浦
下浦
諏訪
大萬
城内
國實
石井、支落一、
曰井内、

重松
高瀬
東覚円
下六條
中島、旧有市
一樂
鴨野
白鳥
高原、支落三、
曰手島、曰南、
瀬部
高磯
第十
天神
南島
高川原
内谷
西覚円
上六番
佐藤塚
高畠
西櫻間
矢野
尼寺、以上二村
元重中為

宝暦校ニ此西郡ノ
寛文四年閏十月
十二日名東郡三谷ヤリ
ルー由留水ノ文見録
ニミエタリ文尼寺村
天正十八年検地帳ニ
名西郡ノ内尼寺村トアリサレハ内谷尼寺ヲ此西郡ヤラレシ儘ナリ

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

上河内、日廣石、曰細尾、曰杜尾、曰空
宋、曰不中、曰佐手、宮、曰川手、曰長代、
神領、名九、曰青井大、曰上角、曰小野、曰大窪、
鬼籠野、名九、曰元山、曰阿佐、曰南、曰北谷、曰谷、
喜来、曰日裏、曰黒川、曰本、曰
廣野、名二十一、曰貴瀬、曰須賀、曰馬地、曰地野、
方子、曰行者野、曰長谷、曰廣野、曰五段地、曰長、
瀬、曰田、薄、曰宝、長瀬、曰持、詩、曰析木、曰中宝、曰
倉、
目、
下浦
大草

廣野 大方 [illegible]
[illegible]
中宝 [illegible]

重松
高瀬

東覚田　高磯
下六條　第十
中島旧有市　天神
一樂　南島
鴨野　高川原
白鳥　内谷
上六条
佐藤塚
高畠
西櫻間
矢野
尼寺以上二村
元重中為

寛政四年閏十月十二日名東郡三谷ヨリ山田郡水主見縁ニテ分ル寺村天正十八年検地帳ニ名西郡ノ内谷尻寺村トアリサレハ内谷尻寺ヲ名西郡ヨリ移セシ儘ナリ

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

以西郡

土田

上山上　中等水田十分之八、陸田十分之二、

上山下　下等陸田十分之八、中ヲ水田十分之一、

右内　中ヲ水田十分之九、下ヲ陸田十分之七、水田百分之四十九、

阿川　中ヲ陸田十分之七、上ヲ雑水田百分之三十五、

神領　中ヲ陸田十分之三、上ヲ雑水田百分之四十九、

鬼籬野　中ヲ陸田十分之八、水田十分之一、

入田　上ヲ水田十分之九、下ヲ陸田十分之一、

上浦　中ヲ陸田十分之七、水田十分之三、

下浦　中ヲ陸田十分之七、上ヲ水田十分之三、

諏訪　中ヲ陸田十分之三、水田十分之七、

貝賀　中ヲ陸田十分之一、水田十分之九、

城内　中ヲ陸田十分之四、水田十分之六、

石井　中ヲ陸田十分之七、水田十分之三、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

脱文

租税ノ
方編上ニ至ル迄ノ分ハ脱ス

土田

上山上 中等水田十分之八、陸田十分之一、下等陸田十分之八、中ホ水田十分之一、

上山下 下等陸田十分之八、中ホ水田十分之一、

（水田脱ス）

十分之二、右ノ内中ホ水田十分之七、水田下ホ陸田十分之三、

神領 上ホ雑水田百分之七十五、中下雑陸田百分之四十六、

鮫野 中ホ陸田十分之七、水田十分之八、入田 上ホ水田十分之七、下ホ陸田十分之三、

上浦 中ホ陸田十分之四、水田十分之七、下浦 中ホ陸田十分之七、上ホ水田十分之三、

諏訪 中ホ陸田十分之一、水田十分之九、

貝賀 中ホ陸田十分之九、水田十分之一、

城内 中ホ陸田十分之七、水田十分之三、

石井 中ホ陸田十分之七、水田十分之三、

阿川 中ホ陸田十分之九、水田十分之一、

鬼 上ホ水田十分之七、下ホ陸田十分之三、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用　挟み込み物

十分之三、重松 中ゟ陸田十分之一、高原上ゟ陸田百分之九十九、
九、水田十分之九 下ゟ水田千百分之三、天神上ゟ陸田十分之一、一樂中ゟ陸田
十分之六、水田十分之四、南島中ゟ陸田十分之四、櫻淵中ゟ陸田
十分之六、水田十分之四、鴨野 中ゟ水田十分之八、
中ゟ陸田十分之九、下ゟ陸田十分之一、矢野 中ゟ水田十分之二、
下ゟ水田十分之七、白鳥 中ゟ陸田十分之七、下ゟ水田
内谷 上ゟ水田十分之三、下ゟ陸田十分之七、高川原
尼寺 中ゟ水田十分之二、下ゟ陸田十分之八、

租稅

一萬七千二百十一石九斗二升六合 元禄
二萬三千六百八十九石一斗五升五合 宝暦

上山上　上山下　左右内
阿川　神領　鬼籠野
鷹野　入田　上浦
下浦　諏訪　國實

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

大萬　城内
重松　高原
瀬部　西覚田
高磯　今四斗二升　上六條　旧二百二十石　石井
下六條　旧六百三十石　今二百七十石　高瀬
佐藤源　中島　東覚田
高畠　一楽　天神
櫻間　鴨野　南島
高河原

矢野　白鳥
尼寺
内谷

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

戸口

七千三百五十一戸　雑戸五十四戸　明和

七千六百十戸　寛政

二萬六千二百六十五口　明和

雑戸三百六十口

三萬九百七十七口　雑戸三百六十八口　寛政

上山上　上山下

左右内

戸口
七千三百五十一戸 雑戸五十四戸 明和
七千六百十戸 寛政
二萬六千二百六十五口 雑戸二百六十口
明和
三萬九百七十七口 雑戸三百六十八口 寛政

上山上　上山下

左右内

戸口了
高村当所ス

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

阿川　神領
入田　上浦
諏訪　国実
城内　石井
高原　高瀬
西覚円　東覚円
災移于板野郡今住土戸
第拾　上六條
佐藤塚

亀ノ瀬野
下浦
大萬
重松
瀬部
高磯旧四十餘戸嘗遭水
下六條
中島

天神　高畠
南島　櫻間
高河原　矢野
内谷　尼寺

一樂
鴨野
白鳥

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

山川

摩盧山　称焼山寺山在名西郡即焼山寺所在之霊山高峻其山多茂木有池径二十歩長三十歩許在祇園初渡上山川在上山村其源三一出那賀郡善户野領大窪名云自北入径栗生野至阿川潜流地下三十歩現出淡瀲奔流土人呼龍首又過神領鷹野入田中入鮎食川

不老泉　在上山大窪名其水至清俗為法水

漆内渓　在左右内村源出山南流一里入上山川

雲早山雲早村　富貴山　上分上山村ヨリ西ノ麻植郡ニ跨ル山上ニ雲早社アリ
雲早山　上分上山村東南ノ方勝浦那賀二郡ニ跨ル山上ニ雲早社アリ
東宮城山　同上西ノ麻植郡ニ跨ル山上ニ東宮社アリ
朝日山　下分上山村ヨリ西方勝浦郡ニ跨ル
須賀山　麓ヲ有瀬村ヨリ阿川ニ至ル　須賀名アリ　阿川ヨリ西村ニ跨ル　其形円ナリ
兩木山　左右内村ニアリ西ノ麻植郡ニ跨ル　焼山寺所在ノ山ナリ

山川

摩盧山　称焼山寺山、在名西那、即焼山寺所在之処、山高峻、其峯峭秀、侑矚群山、上多茂木、有池径二十歩長三十歩許、在祇園初後、上山川　在上山村、其源三一出那賀郡普戸野、一出本村北谷、東南流自北入一出神領大窪名、亦自北入、経栗生下三十歩、現出涼激奔流、土領鷹野入田、お入鮎食川、

不老泉　在上山大窪名、其水至清、俗為法水、

漆内渓　在左右内村、源出兩木山、南流一里、入上山川、

其土恐空不

二龍山（リヤウザン） 在阿川村、其上有石如雙龍相交、目名、其麓有空（ママ）木名、昔有大木、蔭ヲ數里、

手家瀑 在阿川村、其土（名）石懸、其上、有石洞、相傳者手族匿此中、其北有宮、亦傳、

涼族所次、

柳水 在阿川村杉尾名、柳樹下、其水清冽、盛夏不涸、

廣石川 源出杉尾名、入鮎喰川、

石鏡 在阿川村長代名、耆黒滑潤、方六尺許、又有石帽二、在福原名、

溪側高各二丈許、

福原川 源出龜篭野村界、經阿川村、入鮎喰川、

高根山（カウネ） 在神領村、山勢高峻、上一里有草庵、安觀音像、相傳源成助所事、下有溪東流、一里、入鮎喰川、

銅山 在神領村冊生里、呼云不詳、有溪流、一里半入鮎喰川、

瀧渕山 在神領村、石壁絶險、上有小池、下帶鮎喰川、此間勝景、称為第一、

川又溪 亦在神領村、源出一ノ山、天和中、城一里半入鮎喰川、

龜籠野 源経高勃王、戦没于山城、子孫自鳥坂寺、遂定于此、即弓折名、

龜飯山（ハンガン） 在龜篭野喜来名、其峯四、秀無比、上六百丈、安石龕、

二秀峯（ニシウ） 在龜篭野一阪名、兩峯相對、端嚴可観、其麓有里、呼大人、石面陷似巨人蹟、

石面ニアラス田面ナリ

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

折木ノ廣野村ナリ

上良里俗女郎ト云

龜篭野川 源出元山名北谷 龜篭野入鮎喰川
養瀬渓 源出龜篭野経廣野村入鮎喰川
李田渓 源出龜篭野一反木経廣野村入鮎食川
舎目渓 源出折木名木経廣野村入鮎食川
上良崖 在廣野村大地名斗絶十丈許其上百餘歩有石窟古老相傳者佐々木氏之遺類曾逃居此中

建治山（コンヂ） 在入田村高千八百歩即建治寺旧址也上有石洞（中安楠現龕下六十歩有湧布高者千丈左右皆削壁草木叢茸上俎者為護摩壇下有龜谷梁渓亦出鮎喰川

重松村ニ善王寺アリ 中島村ナリ

捕魚池 在城内村曾我神會捕魚于此
渡内（ワタルウチ）川 源出石井村南山中経本村至高河原注鴨野川一称即厨川鯉鮒多時命吏採之

龍松 在重松村善王寺右有枝垂堰 俗傳源廷尉植 似臥龍長十餘歩

第十堰 在芳野河国初導水南注北流漸涸乃盟之以分水勢澆灌瀕田畝長百八十歩許

櫻間池 在櫻間西村今廢有溝通洗合池浪画 花桜相傳旧有木集載無名氏和歌一首

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

矢野神山ノ伊古用ナル丁蓮蓋草一宗祇ノ用多ク萬葉集ニ多阿波伊之集中ニ立本用ニアル丁其油ナシ

麻植郡ヨリ流レ来ル所ノモノハ飯尾川ヨリ下ノ鴨野川ニ入ル鴨野川ノ池尻裏地南村ノ内ニアリテ名東郡ナリ

背戸池　在白鳥墨址

矢野神山　在矢野内谷西南、萬葉集所謂即此又称元妃山、至頂七百歩許、有初安後小角像、昔八倉比賣神廟在于此、後移東麓、

乙谷　在神山西麓、昔有乙二、居此、因名、注ス有敗乙古色存、

瀾石　在矢野慶城東、跨池水、

鴨野川　源出麻殖郡山路、経下浦鴨野、至馬田入芳野河、灌漑諸村、

関梁

渡内橋　在石井、跨渡内川、両堤建石、各二、皆彫仏像、

井内渡　有渡船、絶芳野河、

高磯高瀬　亦有、

上六條渡　渡丁二人、俸四ロ六石、絶芳野河、

第十渡　有渡船、亦絶芳野河、往百二十歩許、

高島渡　有渡船、

高瀬渡旧官渡ニ属ス渡丁月俸アリ上六条渡ハ私渡ニテ月俸アリナシ

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

矢野神山ノ伊予国ヲ見ル事漸ク半国ニアルヲ其酒ナシ
阿讃伊土鳥ヨリ三ヲ本国ニアルヲ其酒ナシ

麻植郡ヨリ流レ一所ノモノハ飯尾川ヨリ鴨野川ノ池底数地両村ノ間ニアリテ名東郡ヲ

背戸池　在白鳥
墨址、

矢野神山　在矢野内谷西南、萬葉集所載即此、又称元取山、至頂十町百歩許、有初步役小角像、昔八雲比賣神廟在于此、後移東麓、

乙谷　在神山西麓、昔有乙、乙名、注ス有敗乙、古多色存、

瀬石　在矢野慶城東、
跨池水、

鴨野　字出麻殖郡山路、経下浦鴨野

四郎手渡　西受田村新宮川ニアリ私渡
六郎渡　同上　私渡
関渡　高原村宮谷川ニアリ私渡
手島渡　同上手島ニアリ私渡

渡内

井内渡

高磯高瀬ニ有、

高瀬渡旧官道ニ属ス渡丁ニ月俸アリ
上六条渡ハ私渡ニテ月俸アリ

上六條渡　渡丁二人、俸四石、絶芳野河、

第十渡　有渡船、ニ絶芳野河、往百二十歩許、

高島渡　有渡船、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

土產

藍所在培殖、

茶神領出、青井夫名多、

蔫青

杉蕈

紫蕈卿名、西眠沈、上山最多、

土常山卿名、吉安買、疋羊、上山出、

石斛上山出、

烟草 唐野出、最佳、

蒟蒻上山出、

蘿蔔

香蕈

茯苓上角最多、

陰美舌吉蘭燒山出、

苦苣苔卿名、一化沈索、

雜

製造紙　神領上山出、最多、其種五、曰中折、曰七九折、曰片折、曰伊賀、曰半切、

草綿布　畧竜野出多、

牛廣野出多、

鍬　高瀬出、

祠廟　延喜式所載八座、在名西者二、在名東者五、其餘二宇、姑錄其名、以俟識者、

天石門別八倉比賣祠　延喜式為大祀、月次新嘗並祀、在矢野神山、今称杉尾者、在東嶺、今移南麓、二有大泉小泉、各有祠、又有地呼天石門、又神田者、俗曰李後紀、某和八年八月戊午授従五位下、三代実録、貞観七年二月二十七日壬寅、授従五位下、三年二月二十七日壬寅、授従四位上、十六年三月十四日癸酉、授正四位下、元慶三年六月二十三日壬午、授正四位上、

多祁御奈刀弥祠　延喜式為小祀、在諏訪村、即名方止美神也、今称諏訪

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

已逼禮于芳ニ八倉姫社ハ名東郡一宮ナリ寛延ノ勘進帳序ニモ名ヲ列ネタレハ郡中ノ大一ノ社ノ四ニテ一宮トモイヒシナラン
此名野村杉尾社ハ大御和神社ナルヘシ杉ハ三輪ニ像リ又本用杉尾社ト書シヲ誤リテ杉尾トハシケン後ノ為ニ其ヲ置ツ両種ニ考ヘ写ス
又八倉姫神位ノ追考 天慶三年三月一日四ニ位 長元勅文 千阪神保之手二月十日永治之年
七月十日治承四年十二月廿三日之暦二年一三月廿日ノ書ハ何レモ一位諸書又朝野群載ニ
天河別神トアルハ此社ナル

祠廟 延喜式所載八座、在名西者二、在名東者五、其餘二座、在名不詳、姑錄其名以俟識者、

天石門別八倉比賣祠 延喜式為大祀、月次新嘗並祀、在矢野神山、今称杉尾者、在東嶺、今移南麓二有大泉小泉、各有祠、又有地呼天石門、又神田者、続日本後紀、承和八年八月戊午授従五位下、三代実録、貞観七年二月二十七日壬寅、授従四位上、十六年三月二十四日癸酉、授正四位下、元慶三年六月二十三日壬午、授正四位上、

多祁御奈刀弥祠 延喜式為小祀、在諏訪村、即健御名方止美神也、今称諏

訪、

麻能等比古祠 延喜式亦載
曰麻能等水内也、謂速秋津彦
命也、口以上三座、
大祀一、小祀二、

白鳥祠 在白鳥村、其神
景行天皇、四十三年、日本武尊也、按日本紀
伊勢国能褒野、時年三十
二、即詔群卿、命百寮
仍葬於能褒野、時有化白
鳥飛群目南翔、其陪櫬而視
之、明衣空留而屍骨
無、於是遣使者、追尋白鳥、則停於倭琴弾原、仍
於其所、造墓安、白鳥更飛至河内旧市邑、亦其
処造墓、故時号三墓、曰白鳥然遂高翔上天、
仲哀天皇、元年壬申、十一月乙酉朔、詔群臣曰、
葺葺白鳥、養之於掾域之池、以観其鳥、欲慰顧
情、乃令諸国、使貢白鳥、三
月六日庚辰、授従七位下、元
日甲午、授従七位上、三好氏献地二十貫匿域
三段餘、時屋三間六架、中
間八架、楼門置門客人見
坂北有田、呼宮田、蓋其祭
三代実録、貞観
元慶七年十二月八日、授従
初腰宮、本列已有此祠、

埴生女屋祠 在神領村大字栗山、一称田口神或
神田又林、所謂埴生郷即此、其東南一里半地、
曰丹生水、有石形、俗訛馬名曰馬石、三代実録、
元慶七年十二月八日、授従五位下、側有午頭
八幡祠 在上山村三、一称黒杉、在川又名十一
月上卯神會為市、一称宇佐、在大石寺、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

訪、

麻能等比古祠　延喜式ニ麻能等比古神社ト
命也、口以上三座、
大祀一、小祀二、

白鳥祠　在白鳥村、其神　日本武尊也、按日本紀
景行天皇、四十三年、日本武尊薨于

黒松八幡　寛正三年壬午十二月廿一日ノ棟札ニ奉造立黒松八幡菩薩御社作本
願主尾田檀女惣大公勝原同重也トアリ
外ニ永正元和ノ棟札モアリ
宇佐八幡　永正四年ノ棟札ニ奉願主篠
原左京進トアリ
新田八幡　永享二年庚戌七月十四日ノ
棟札ニ志願人勝頂負包トアリ

船盡比咩神社　廣野村行者野名ニアリ慶長十二年八月ノ棟札ニ建立船盡神社羽辻
大明神ニ名西郡長谷村内別当大教院尊信法印トアリト旧社僧日先院旧記ニア
リ長谷ハ廣野村ノ名ナリ昔ハ此辺ニテモ長谷ノ内ナリシヤ此神ハ三代実録ニ
十四年十月廿七日阿波国正六位上船盡比咩神ノ旧社
ナリ依テ氏ハ名東郡一宮村ナル船戸トシ永井氏ハ板野郡堂浦ナル栗井明
神ナリトイヘリ其沿アルニモアラス依テ暫ク此所ニ収入レテ後考ヲ俟ツ

埴生女屋　在神領村大字
ハニフメヤ
埴生女屋祠　日大宜都比賣神、今称上一宮、賜
神田及林、所謂埴生郷即此、其東南一里半地、
曰井生水、有石形、俗卜馬、名曰馬石、三代実録、
元慶七年十二月八日、授従五位下、側有午頭
初勝宮ニ非ス、

八幡祠　在上山村、三、一称黒杉、在川又名、十一
月上卯、神會為市、一称宇佐、在大石寺、

本別已有此祠、

埴生女屋ハ佐野氏ノ埴生屋敷ナリ一宮ヨリ乙ノ浜ノ内ニ社ニテ院ニ宮ノ名方郡式内ニ社ニテ院ニ宮ノ名アリ信陽ニ本同ニ埴生ヤ屋ハ信陽ニ僅ニ残ル古社ニテアリ一宮ヨリ三里ヨリ乙ノ浜ニアリ

辰市ト云ハ宇依八幡神會リ太皷初ヨリ云フテ而シテ宇依大皷川地ニ參ル故ニ此テ復元

名、十一月上辰、闔村参祀、有大皷初、称辰市、又有當麻蔵王初、星初、又有春日初、又在川又、

八幡祠　在阿川村、三、一称右手、一称弱宮、一称二宮、又有權現初二、一在石堂、一在岡野、星初在日裏、鎮守初在寺野、八幡初在不中、名、牛乙初鎮守初在河内、名賀大神初星初、八幡初在宇度木名、牛乙初、権現初在川手名、明神初在長代名、天王初在大宅、山霊初在黒木、名東森初在地手名、星牛王初在神木名、乾初在阿川名、八幡初在井谷名、祇園初在鷹石名、藏王祠　在神領村、又有中山初、王子初、天皇初、又有八幡初、在青井部名、

源経高廟　在龜篭野村乎折里、

御嶽祠　在龜篭野村、又有明神初、杉尾初、

八幡祠　在鷹野村二、一在馬地、一在両区、又有新初、八幡初、牛乙初、在堂山、牛乙初、在折木山、鎮守初、在弱宮名、

齋祠（イツキ）　在上浦、

建治祠　在入田村、有窟、鷹一丈餘、深二丈許、安初于其中、又有春日旧址、地名春日、

牛頭祠　在下浦、称瀧宮、藤原正次置後有坪井人、又大内氏裏来寓于近藤氏、改称山口、世為之祝、又有山王初半宮、

八幡祠　在舘舩村、八幡原、称大宮、

大宮ト称スルハ諏訪初ナリ八幡初ニアラス

上分上山村　富貴村　八幡村　宮谷名　十二社村　大久保名
長倉村　牛ヶ谷名　八幡村　宮脇名　西森八幡村　松ノ名　八幡村　松ノ名
八幡村三　中谷名　御崎村　江田名　雲辺村　日上　八幡村　中津名
八幡村　門屋名　八幡別当　有御名　餐屋村　野伴名　大宮原村　原名
池内村　大釜名　東宮山　東宮山
乃分上山村　八幡村　宮脇　中谷　中津　恒平　六中尾　梵山名ニアリ
龍王村　西ヶ名　宮ノ下村三　名ノ下ニアリ　夏ヤシキ名　叡山村　権現
鮎喰村　西ヶ谷偏　若宮　宇井　下七名　檜ノ内村三ノ丈　八坂村　祇園
山城村　中内　黒滝村　上七名　十倉村　水舟
阿川村　東森村　宮谷村　神木　八幡村　下名　八坂村　祇園
三社村　寺内　星森八幡村　宮尾　社ノ前ニ多シ　八坂村　祇園
深淵村　星森　若宮　王子村　神木
神領村
八幡村　寄井　上角　青井丈　中山村　寺津　妙見村　若宮
八幡村　寄内　受宮村　古城山
大峯村　松枝　鳥倉村　八坂村　中尾　鮎喰　宮尾　祇園
左右内村　十二社　熟田宮社　梵山寺山　鮎喰　王子村　二ノ丈　祇園
上依地村　南等　青童村　寺名　星村　地名　三島村　多名　多名村　庄部

裏龍野村　八幡村　寺名　三名村　元山名　明神村　寺名
廣里村　八幡村　宮ノ内　灘川　北ノ地　八坂村三　寺名　日枝村　寺名
日枝村寺内　北ノ地　神明村　神名　入田村　宮ノ下村　元屋
貝吉村　八幡村　宮ノ下ニアリ　大万村　八坂村
重松村　八幡村　南島村　八幡村　三森村

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

曽我祠　在城内村、安祐成及時宗主、毎歳十一月二十一日、神會夢以生奠、

中王子祠　在石井村、称十二社、有樸樕、

八王子祠　在高原村池北里、称林、其主熊野八王子、鳥羽王子祠　在瀬部村、相傳其主　土御門天皇、

熊野祠　在中島村二、一称新宮、其神速玉男命、事解男命、傳父治中源宗隆領本郡、諸祀者十六村、曰井十丁、曰依藤掾、曰下六条、曰上六条、曰高磯、曰高瀬、曰瀬部、曰東覚円、曰高畠、曰高原、曰国実、曰重松、曰大南、曰高中島、

藤田牛巫祠　在中島村、称玉子権現、牛巫稲荷玉子帯刀女婿、中島之城陥也、至後而歿、

八幡祠　在井十村、

菅廟　在天神村、俗傳、昔負安者、負神像而至、作祠以安之、

石河祠　在一宝村、俗傳、父治中賜本村于石河氏、河内人、天正中絶、古墳多、蓋石河氏堡城也、側有僧房、皆安之、

櫻間祠　在桜間池側、

紀成良祠　在桜間村城址、称成良八幡、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

曽我祠　在城内村、安祐成及
歳十一月二十一日、
中王子祠　在石井村、称十
二社、有樓欅、

在高原村池北里、称鳥

伊裝冊等、
解男命俗
此祠其号
古条曰上
曰西覚田、
重松曰大

石井村　東王子祠　手山　神宝祠　称
高原村　東八幡祠　西八幡祠　トモニ手島ニアリ
八幡祠二宇　一宇
高畠村　日枝祠　二行　松熊祠　中須
祇園祠　在坂　八幡西宇
東覚円村　産土祠　古墳
西覚円村　覚右祠　大窪
住吉祠　王子祠西傍ニ
下六条村　牛頭祠　古墳　當初祠
上六条村　十二社祠　中宇
宇佐祠　神明祠　王王祠　神木
宇能祠　三目一祠　三目一祠　男仲
少名祠　三上宇　神明祠　宇
熊野祠　月輪祠　古井内　(スナル乳銀杏榊リ信ニ気)　摂山祠　日上　神名　(ゆどうの)
美王子祠　中井内　猪祠　鳥居　天神祠　古井内
庚坤祠　古井内　八幡祠二　神社

現、牛、巫稲
陌也、至後

村于石河
蓋石河氏

僧房等之、

櫻間祠　在桜間
池側、
紀成良(レゲヨシ)祠　在桜間村城址、
称成良八幡、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

上賀茂祠在鴨
野村、
王子祠在高川原村、俗傳
祀高川原五王、
大山祇祠在矢野村、又有矢(ト)持祠、
杉熊祠、在神山東麓、
菅廟在白鳥村、又有
八幡祠、祇園祠、

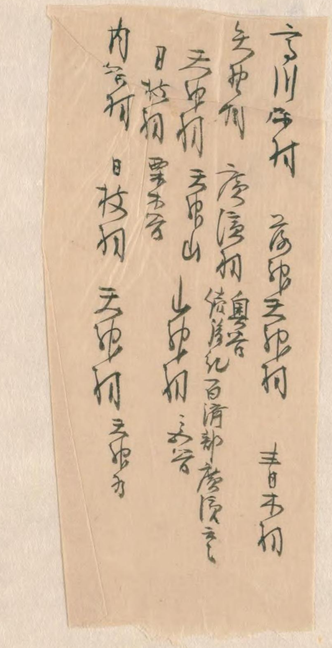
佛刹

明王寺在上山下村、旧名、修
真言、歟曽舜重造、修真
西光寺在上山下村稲原里、修
言、明暦三年歟曽舜重造、
妙法寺在上山上村、亦修真言、文安二年
歟嶺秀居、支院二、曰高音、曰真福、
燒山寺在摩盧山、属右内村、距下一宮七里、
谷深路曲、安置空蔵像、有窟三、一曰蛇
在祇園初後、一曰護摩、在大黒堂上、一曰閻持、
在其上六十歩、又登者千
杉樹大七圍、在距大門千
平二年梧田二畝、宗秀官
斗
餘、
十歩、有蔵王祠、有老
八十歩、享保中梧、
庵在今来地二石三

平中・祥
三郡郡誌

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

上賀茂祠在鴨
野村、
王子
大小
菅庵



佛刹

明王寺　在上山下村、註名、修
真言、秩皆舜重造、
西光寺　在上山下村、稻原里、修真
言、明暦三年、秩皆舜重造、
妙法寺　在上山上村、亦修真言、文安二年
秩嶺秀居、支院二、曰高音、曰真福、
燒山寺　在摩盧山、屬右内村、距下一岩五里、
谷深路曲、安置空蔵像、有窟三、一曰蛇、
在祇園初後、一曰護摩、在大黒堂上、一曰閻持、
在其上十丈、又登者千十丈、有蔵王初、有老
杉樹大七圍、在距大門千八十丈、享保中拓、正
平二年梧田二畝、栄秀官庵、在今栄地二石三
斗餘、

平中・祥
三郡郡境ノ波

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

善長寺　在右右内村、修真言、相傳天平中秩行
基置、院屋建、久九年秩良範重造、慶長
中復屋近享
三年復修、

神宮寺　在神領村、修真言、安阿弥陀像、以観音
勢至二像脇侍、曽上一宮初後又淳
成助襲初職、日就荒屋天正中罹兵燹、院而
陽雲公停駕、遂捨金、重造尋又禄三年癸卯
二年火、又
書皆亾、

善学寺　在神領村上角、隷神宮寺、
寛永十三年秩皆照重造、

長満寺　在神領村、本隷神宮寺、長徳三年秩四
覚置、相傳四覚源満仲之子、小名美女
丸、有満仲木主、識曰覚信、永禄中秩寛泉重造、
有堂安観音像、源成長所奉、又有成長廟、以其

臣権守高橋
兼氏配食、

良蔵院　亦在神領村、又秩大通寺、隷三宝院、優
婆塞居、即旧国造宅也、蔵一宮氏神牌、
源成長老于此、使子成賢居一宮、養良蔵院襲
国造、成長即成助古世之祖也、阿川村有馬之
里、里人相傳、成長女懐之処有初、
祀成長及其臣権守高橋兼氏、

禅定寺　在阿川村、修真言、秩安阿弥置、慶安元
年秩良什重造、又有厨持福寺元禄三
年分其田、以賜民、

観善寺　亦在阿川村、秩行基置、已廃明
暦三年秩良什重造、隷禅定寺、

龍光寺　亦在阿川村、修真言、又有厨阿弥陀寺、
優婆塞居、見天文文書、今阿弥陀堂。存ス

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

真光寺　在鬼篭野村、隷安乐寺、天文二年、永法通置、

神光寺　亦在鬼篭野村、隷神宮寺、永清辞重造、

西明寺　在鷹野村、修真言、安観音小像、相傳手長四尺、亦佗時頼所齎、西戎作、最恭布中葵、西徳四年、秋皆善重造、又有石井、

観音寺　在入田村、又称常光院、山名猶残、旧名建治寺、山名大澈、今隷持明院、安観音像、

西福寺　亦在入田村、又称西戎院、山名紫雲、為観音寺別院、安観音像、

瑞泉寺　在上浦村、隷山城妙心寺、

妙楽寺　亦在上浦村、優婆塞居、隷聖護院、見天文文畳、又有持福院、亦隷聖護院、

頼成寺　在下浦村、修真言、又有永世堂、其像一丈六尺、天正中、自惠墨址移頼成寺、曾之、佗傳鎌倉二位禅尼置、又有藏堂存、慶高壹寺、今観音堂存、又有慶光明寺、阿弥陀堂存、慶高壹寺、今観音像、

王頼寺　木寺慶祉、垂罹兵燹、

養牛庵　在国実村、隷鳥（源カ）養牛庵諏訪村ニアリ、興源寺ニ隷ス
云寺摂之、又慶四蔵坊、今小庵存、

光巌寺　在大萬村、隷蓮光寺、

浄土寺　在城内村、山名家秀、修真言、曾曾我部氏、

童学寺　在城内村山地里、俗傳永室海学書于此、今隷武蔵霊雲寺、有池景色可観、昔

杜賀宇李源吉信
木重造梁銘存
Ⅲ徳寺　在石井村
修真言
徳蔵寺　亦在石井
村修真言
地福寺　亦在石井村
緋衆(大覚)寺
西方寺　亦在石井村
緋衆寺
勝明寺　亦在石井村緋
手女奥西寺
専住寺　亦在石井村緋
手女奥西寺
蓮光寺　在重杜村
修真言

高原村ニ長音寺ナシ長応寺アリ今庵ヲ

補光明寺　在西覚Ⅲ村緋衆寺

今庵ヲ

宝光寺　在高原村
亦修真言
性福寺　亦在高原
村修真言
長音寺(応)　亦在高原
村修真言
地勝寺　亦在高原村
緋宝光寺
萬福寺　在高瀬村修真
言安李師像
蓮金寺　亦在高瀬村
修真言
弥陀寺　在瀬部村山名天津安
阿弥陀像緋荘厳院
明照寺　亦在瀬部村緋衆寺
光寺文禄中重造

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

浮徳寺　亦在瀬部村、緇東光寺、天文中置、

四行寺　亦在瀬部村、緇東光寺、大永中重造、

神宮寺　在中島村、修真言、祭熊野初、相傳文治中、平宗隆置、

菩王寺　亦在中島村、緇遵光寺、安末帥像、有古杉一株、高一丈許、大三四圍、斛枝四出、不知経幾百年、

市音寺　亦在中島村、修真言、管者一王子、初、在天神村、亦修真言、管菅廟

善福寺　在高畠村、修真言、天正中衰怯、讓置有杜熊祠、

宝幢寺　亦在高畠村、天正中衰、善置、緇千福寺、

慶長寺　在一宇村、今小庵存、観音像、

東禅寺　在南島村、緇遵光寺、

玉元寺　亦在南島村、緇遵光寺、安観音像、吁楊柳観音、

慶善福寺　在鴨野村、罹兵燹、今小庵存、

慶見正寺　在高川原村、今寺、菩提樹存、又玉林寺、大行寺、光満寺、和遵寺、慶址、並為泰元親所焼、

慶成徳院　在白鳥村、鳥阪、佰傳天長中置、天正中罹兵燹而廃、

天神村ニ寺ナシ又寛保神社帳ニ天神村天神社初メ中島村菩王寺トアリ然レハ往昔ハ菩王寺領ニテ置ケリ

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

國分寺堂塔址在矢野村石柱存周五丈長一丈五尺又有禅念寺廢址

法華寺廢址在庄村天平勝宝元年七月乙巳岩清寺墾田四百町自餘宅額寺寺（別一百町）天平宝字五年六月庚申設皇太后周忌齋於阿弥陀浄土院天下諸国各於国分庄寺造阿弥陀丈六像一軀脇侍菩薩像二軀迴暦十六年二月己未太政官符禁断諸庄競入法華寺事（寺）依紀朝臣古佐美宣伝奉勅今聞諸庄競入件寺自今以後一切禁断非勅處分不得輒入見類聚三代格至今礎石存有田呼大門

興禅寺在矢野村修禅蔵鶏鶏頂一顆

紀八一号ノ誤カ

古蹟

経治墨在上山経治名蓋佐古地名云有古墨不知何人所拠也

神領墨在神領村谷名俗傳紀成良築之

唯月谷別荘址在廣野村土饅地名方一歩許民不敢墾

上浦墨在上浦村麻殖郡界古慶拠此或称麻殖墨其塚存

東墨在下浦村北臨河水南西諸山藤草巳次拠此天正十年陥今為民居

田村墨在下浦村山麓田村源大夫拠此其墓存今為田

津毛墨在下浦村教迦堂北源吉信拠此今為民居

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

国実墓　藤原隆親拠此、
距東墓甚近、

城内墓　久禾石見守拠此、
斎為里西、以為宅、

石井墓　在西法寺西、石井
此、其北有参河守古進宅址、

重松墓　近藤者狭守
拠此、

瀬部墓　在瀬部村、板東雅牢又拠此、或云
瀬部喜右衛門所拠、有小初祀之、

六條墓　三好何右衛門所
頼俊戦死時、其妻
以至一宮城、以頼俊
与成助親善之故也、

下六條墓　板東紀
守拠此、

第十墓　大
夫拠此、

中島墓　稲井帯刀拠此、
初祀之、在民家側、

天神墓　在天神村、
井乙弥拠此、

源吉竹宅址　在一宇村、
称石川権現、有初

鴨野墓　在鴨野村、土肥弥太郎拠此、有小
初祀之、称弓矢神、其裔為里正、

高川原墓　在高川原、枕鴨野川、高川原五三拠
此、戦死于芝原、作初祀之側、有墓、或
曰源光則所拠、

幸白山墓　在白鳥村、鳥阪頂、源
経高拠此、某久中陥、

白鳥墨在鳥飼西野李右近撫此壕墨猶存者
田呼北門者古松一株即右近墓也又
有小祠称弱
宮即其廟也
矢野墨在矢野神山西南接清山東北臨平田
限巳溪水永禄天正間藤原国方撫此
壕墨猶存又有大泉
小泉其水皆清冽

塚墓

今月輪神社境内ニ石仏ノ供物ノ如キ輪塔ノ移セシ数ヶアリ月輪ノ名ニヨリテ義実ノ子ナラン云々

月輪相国藤公兼実墓在瀬部村阿弥陀寺旧址
称永源寺源氏流于嶺岐国分寺漫漶不可辨土人傳
明月記云寿元三年夏四月五日甲戌薨享年
六十
一、
古墓在中島村側有樸
樹俗呼平宗隆墓
源長成墓在大粟山
良蔵院
藤原隆親墓在国実
村城址
高川原五三墓在高川
原城址

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

兒(ナゴ)墓在矢野城下、蓋藤原同方之子也、又有荒墳三、未詳、
野本右近墓在白鳥村城址道北、塚上有杉一株、称弱宮、
湯吉竹墓在一宇村小庵側、
石川氏諸墓亦存、

氏族

藤原蕉實 関白忠通卅三女、従一位大納言、兼右近衛大将、贈太政大臣、高倉帝在東宮、兼傅母、寿永二年薨、

藤原基家 従一位大納言、兼右近衛大将、贈太政大臣、高倉帝在東宮、兼傅母、寿永二年薨、

藤原基通 卅三子、保元中任右近衛少将、転権大納言、歴内大臣、摂政、従一位、文治二年為太政大臣、建久七年罷関白、削髪称三槐荘主人、正治二年薨、時年六十一、

藤原道家 称月輪、又九条、又称東山、又称普門院、又称大慈院、又称禅定殿下、従一位、摂政、太政大臣、貞永元年薨、時年六十二、

藤原頼経 従一位、摂政、太政大臣、

藤原頼嗣 従一位、摂政、太政大臣、

平宗隆 称那須与一、又治二年賜高志郷十古村、子孫来居中島、仕管領、

宇隆中島熊野神下涼トシテ今又平ト之皆設也本社静草ヲ須ヲ図可記

讀ミアテ土佐ノリ
東鑑

源経高 称佐ノ木、補中務丞、居相模文治二年
為阿闍淡三州守護、治二年八月二
日罪、称服為僧、称経蓮、来久三年孝
天皇詔、起兵、王師敗、匿于鷲尾、手素時使人慰、
経蓮不聴、遂自殺、其族皆死、近
之間、弓折里民自称其苗裔也、
有用道慶、姓紀、民部成良之後、源元長之女婿、
居上浦墨、男其称徳次郎元亀二年
官勝
瑞、

隼号 其姓手、一称久
采、見太田文、

浦其姓手亦見
太田文、

源吉信 称津毛越中守小笠原氏之族、明徳中
人世居津毛墨、津毛一作坪、又有加賀
守、見壹岐寺募縁疏、又有越後宮蔵並見、或
曰越中守、天正中為甘利奥右衛門所殺、
宮任其姓手一称久采、居下浦者墨及小初、其
西有高瀬兵庫仏仕篠原、宅址其東有竹田参
河守墨、傳称与圓株並田仕、上桜、
大和守元亀三年七月死于、戦死、
野本右近 姓手天正十年八月、
中富川居白鳥又有修理、

高川原其姓手称五三、
久采氏之後、

徳里右太夫 姓手、其宅址在白鳥村徳里、
与白鳥墨隣亦久采氏之族、

行高其姓手見
太田文、

源吉竹 称石川居一乎村、其先河内石川人、其
族五曰柏木曰新居曰吉滝曰太原曰

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

三石、天正中与進
戦死于中冨川、
久禾石見守姓平、或曰名家秀浄土寺称家
秀山、繋其名也、子孫居城内村、
甘利奥右衛門姓源、一称武田、居南
邊追某姓源、見
太田文、
飯田半右衛門姓源、一称都臣、
弟十重太夫姓源、居中冨川、
佐藤久右衛門姓藤原、戦死于中冨川、
井河某姓
源、
松浦某姓平、
八十藏某姓源、小笠
原之族、
徳命某姓源、井河以下四
族、並見太田文、
藤原吉国称天羽、其族三
曰浅井、曰荒川、見大状、
高志(タカシ)右近天正十年戦死于中
冨川、居高志、即高磯、
折野某姓源、見
太田文、
田村源太夫姓源、居下浦、又有新介、半右衛門、
藤原国方称矢野、駿河守、梁銘小笠原氏之族、十
七貫三好氏領五十
家相二十三人、国方其

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

三石、天正中卒進
戦死于中富川、
久米石見守姓平、或曰名
秀山、繁其名也、子孫居城内村、
甘利奥右衛門姓源、一称武田、居南
邊追事姓源、見
太田文、
飯田半右衛門姓源、一称都臣、
戦死于中富川、
佐
井
松浦
八十
徳命某姓源、井河以下四
族、並見太田文、
藤原吉国称天羽、其族三、曰立江、
曰浅井、曰荒川、見大状、
高志(タカシ)右近天正十年戦死于中
富川、居高志、即高磯、
祈野某姓源、見
太田文、
田村源太夫姓源、居下浦、又有新介、半右衛門、
見童学寺梁銘、小笠原氏之族、
藤原国方称矢野駿河守、世仕三好氏、領五十
七貫三好氏家相二十三人、国方其

吉城記ニ板西郡高志殿ト書タレ共、或ハ雲トアリ又一書ニハ原田高志右近ト書タリ今ノ板西氏ハ皆雲トアリ原田ハ今ノ吉田村ナリ高志右近ハ吉田村ノ城主ニテ子孫村ニハ非ルヨシ伝ヘ氏リ高磯ト高志卿名ノ違レルモノトミレヨリ云々ト書タレ共村ノ人トヤラレヒ

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用　挟み込み物

一也、常与土佐与戦有功、獲増尾中務大輔三好氏嘗以書、天正十年三月、称其君長治、同方在讃岐引田、聞之一日而至、与其族倫淡守越前守謀使荘野久右衛門誘之曰、君之讐也、請為竭力、久与頼俊詰旧、酔而出、頼俊亦大酔不復戒厳、同方乃攻而殺之、七年十二月、岩倉之役、退過脱城遇伏与起、与男太郎二郎共所殺、一曰為加藤主水所殺、

藤原隆親　称近藤加賀守、居同国寒見、童学寺梁鎗、

近藤者狭守　居重松、子孫称六郎兵衛、

藤原正次　称近藤勘右衛門、孫源成助、及土佐西寺堅河池田肥前守、野中同吉、淳与数千、隷園、時与僅三百餘、源存保自淳与二千山行援之、正次出而襲存保之与、在東嶺布之、敵驚散走、死者三百、明与族有加賀守六郎、狭守、

岸某　丹波亀山人、祖某戦没于山城船岡山、

源成次　称一官和泉守、成助子某、称通助尚幼、家相阿部出羽守以寛永中、耕于廣野、至總右衛門、為里正、

平満流　称千葉介、其先出于桓武帝之流、高望王、父明三年隷居大栗山、苗裔作初祀之、

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

平明宗称千葉又栗飯原居上山栗生野満流之後其族三曰青山曰多田曰田中天正十年平丞戦死于中富川

平清流居上山村満流之裔代長中總右衛門兼称栗飯原氏数千人敦基開死于寺窪清流傑之有功上野国長右衛門亦与焉陽雲云賜昏以賞之世居上山為里正

平宗胎称栗飯原明宗之後

平元次称多田刑部丞又称多田氏之族天正十年浜源成助攻今切城其裔居阿川村為二宮祝嶺永四年山城及右京亜除丁役又有五兵衛者居高川原朝鮮之役獲

一人以帰遂為奴改称勘七勘七之後分為十四戸源光則称井内越前守其族石見守居石井村井内里見童学寺梁銘其族三曰津田曰平川曰川上

良民 林兵右衛門 石井人其先常林三好氏時為里正苗裔相襲至今兵右衛門其性順良極飢救病卿憲頼其力

女子 多良須古 栗田名方郡植村百女 白壁天皇代写法華経於麻殖郡蒙山寺于時麻殖郡人忌部連枝屋孚彼女之過以誹謗即口喝斜面疾於後見日本霊異記

矢野神山ハ伊予ニ見ユル山川ノ条ニ委シ

文苑

矢野神山

萬葉集、柿本人麻呂、詠黄葉和歌云、妻隠矢野神山露霜尓、宝比始乍敷

巻惜

新撰六帖、常盤井相国和歌云、妻隠矢野神山雲毛無、月尓啼也、樟鹿迺聲、又光俊和歌云、名尓高矢野神山小夜深亙、速弓張乃月毛以前良芝、綾指遺集注三位行能和歌云、梓弓矢野神山春智哭天霞巳空尓多、又常盤井相国和歌云、秋霧言婆啼哉小鹿乃妻隠矢野神山露序添良芝、新勅撰集鎌倉右大臣和歌云、雁啼天寒朝気乃露霜尓矢野神山色岡於尼計利、玉葉集入道前太政大臣和歌云、梓弓春立計

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

丑12
19

良芝武士乃矢野神山霞嶺鍵
夫。木集後九条内大臣和歌云夏果百矢野神山
立忍馬多妻賀久須鹿序鳴良武
又考後和歌云妻隠矢野乃山辛墨賀恵迺木
乃常無窓戸吾歳已経奴
家隆家集云妻隠矢野神山云速夕乃霧乎鹿
序啼辛百
民部卿。家和歌云露霜哉矢野神山仁乎戸宝
比初嘗白峯乃毛美治婆
又云梓弓春登云容利比祝賀閇天波夜久毛
祝矢野里人
櫻間池在桜間村夫木集無名氏和歌云鏡騰
加白桜間池毛見閇祝毛乃哀春来伐遅利乃美加
阿波志巻之九

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

阿波志

勝浦郡

十

丑
12
19

東京圖書館
丑
一
函
架
九
二
號
冊
類
門

国立国会図書館　　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

阿波志卷之十目録

勝浦郡

圖

建置沿革

郷名

村里

土田

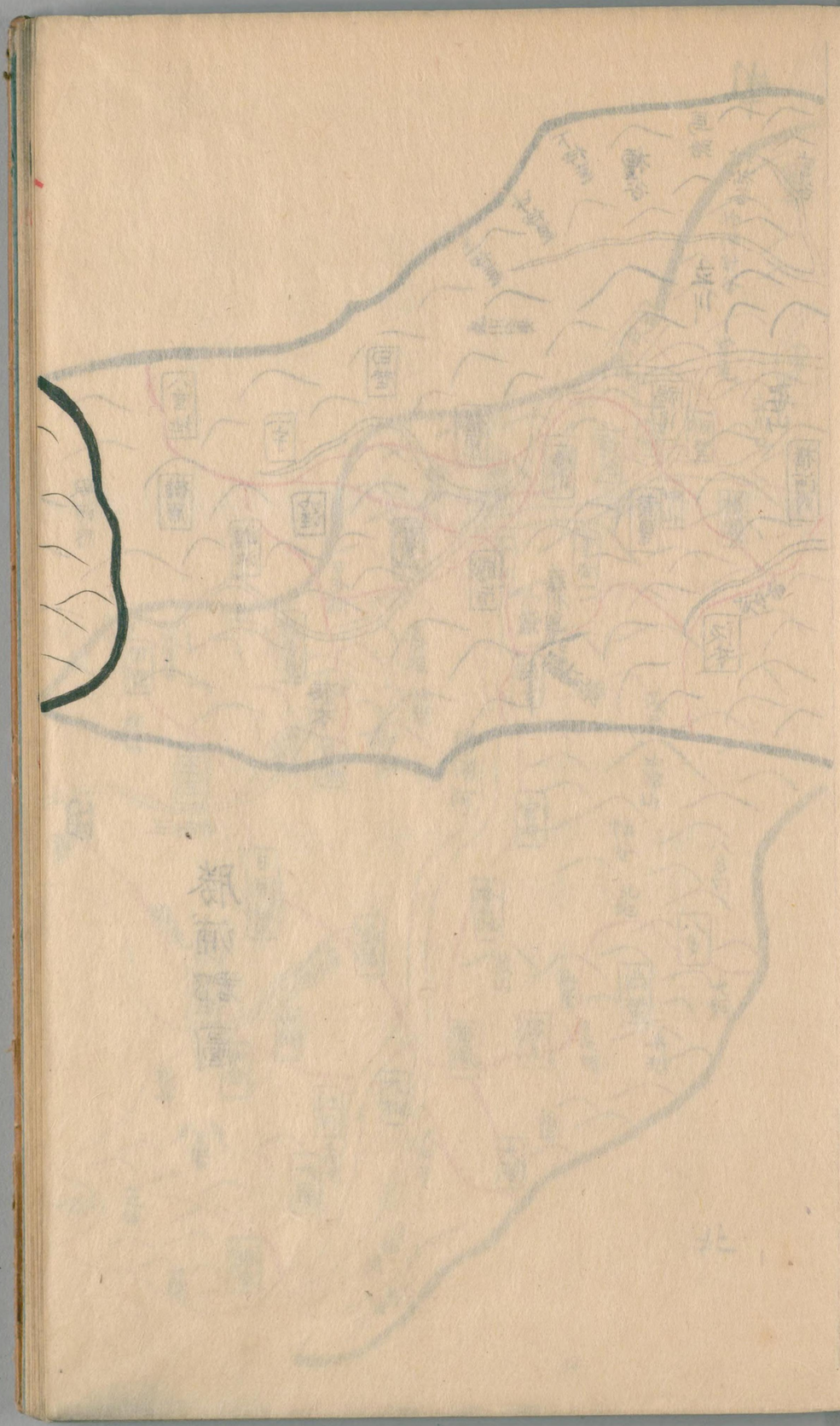
租稅

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

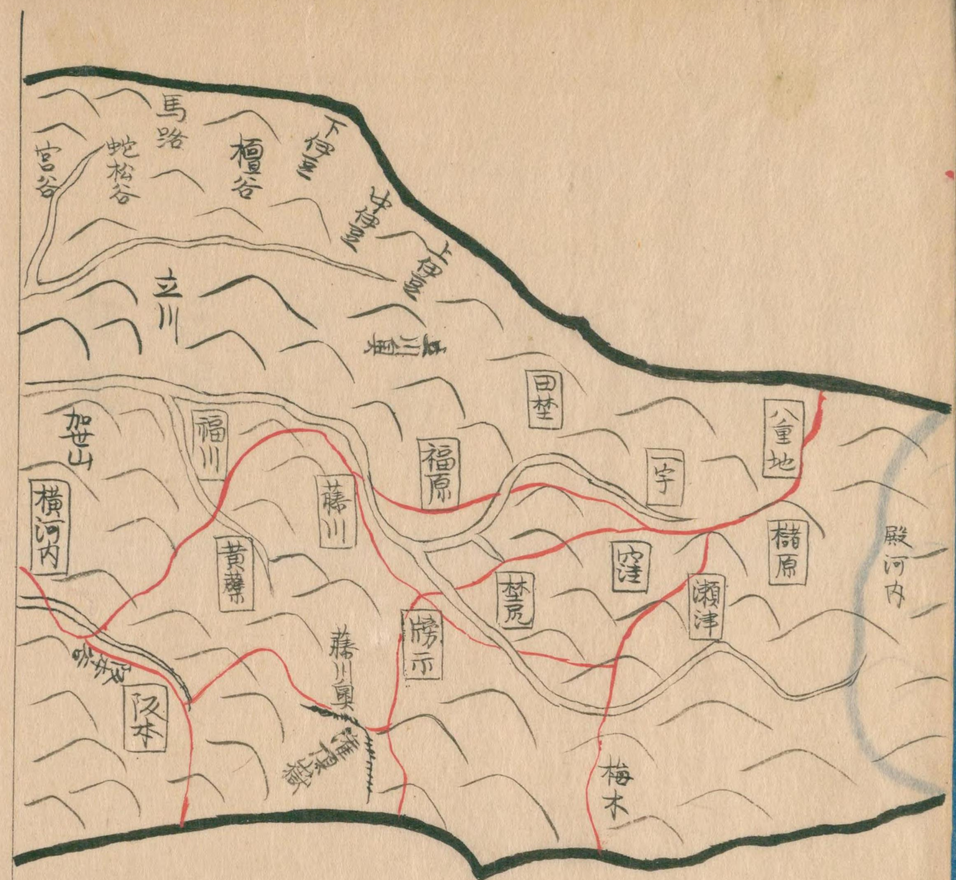
戸口
山川
関梁
土産
祠廟
佛刹
古蹟
塚墓

氏族

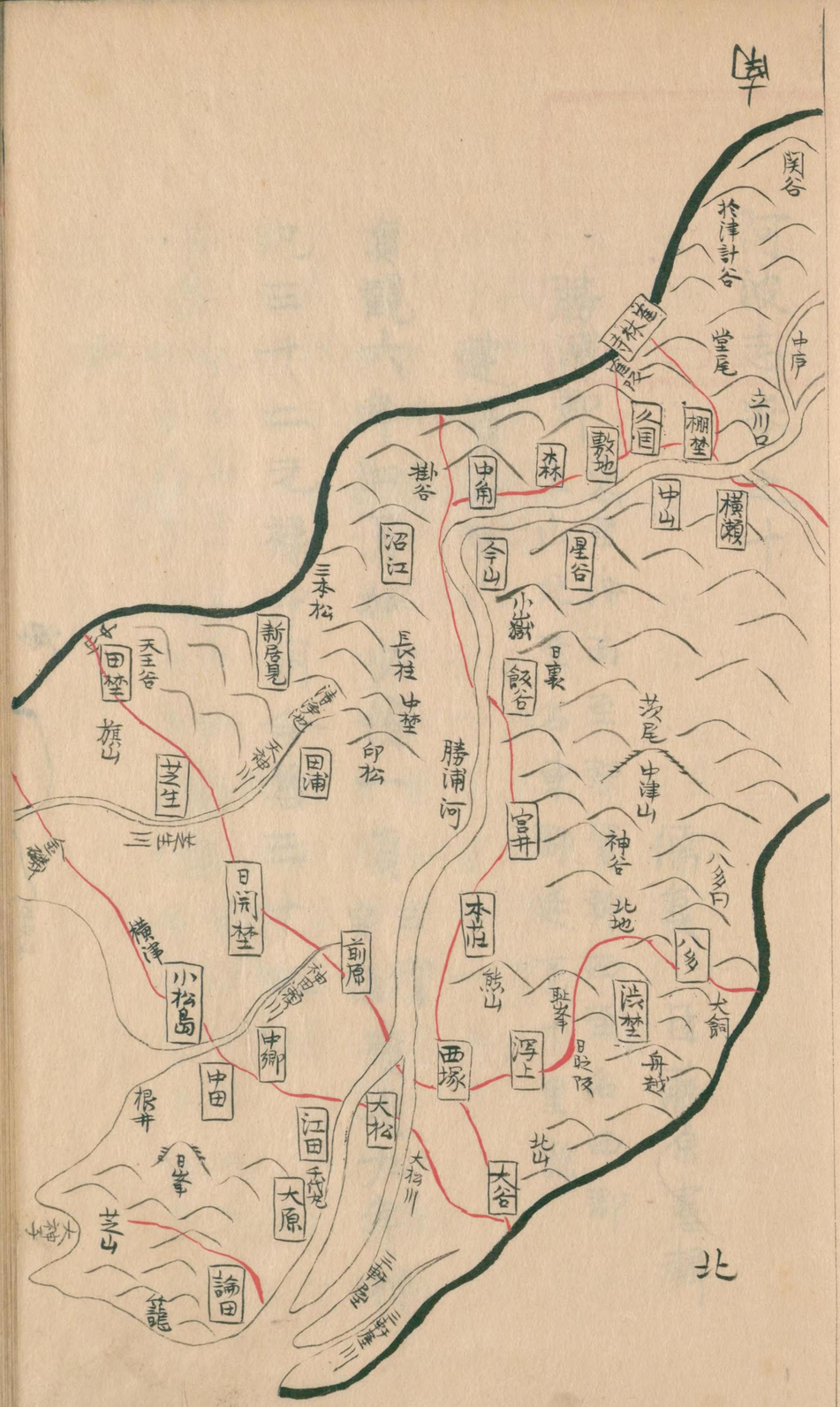


国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用



勝浦郡圖



国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

阿波志 卷之十

勝浦郡 東至海南至那賀郡西至名西郡上山北至名東郡延袤十里餘

儒員 臣藤原憲輯

建置沿革

貞觀六年四月加少領一員 三代実録 慶長九年村
凡三十二元禄中同今為三十九

郷名

篠原　今字荘有篠原里
本荘浜上昔属此村
萬歩称多
加良勝示

新居　今有新
居見村

託羅　今廃宮井村青蓮
菴前有田四十八
今有新
居見村

餘戸　小松島一名阿摩古恐餘戸之轉戸令云
凡戸百五十戸為里毎里置長一人若満
六十戸者割十戸立一里置長一人其
不満十家者隷入大村不須別置也

村里

大谷　大松　慶長以前称高田尋称北
支落一　塩濱中稱平松旧有塩場
曰萱埜　論田浦　百年前曰田浦
大原浦里二曰千代　人法壁為田
城曰大神子　江田
中田里一曰　中郷　小松島　旧称阿
澤里　金磯元禄二年八月勝浦河大　摩古有
坊隆　溢芝生川決乡田某請為
丁役　日開野　旧有中島
壁田七　今合為一
十餘町　田浦
芝生
田埜

新居見 此間昔屬新居郷
潟上 旧稱乾潟上
澁田 犬飼
澁墅 里一日長八多里三日下田勝示
李荘 旧稱櫻間昔 屬篠原郷
宮井 此間旧許羅郷 谷口曰小竹勝示
飯谷 支落一日良曰沖墅勝示曰杉尾曰
沼江 支落一日山谷一日今舊
中角 旧作中津墅
星谷 旧屬森村谷七曰小疋曰井峡曰二森曰當曰灰焼
森 谷四曰墅神曰砥石曰大谷曰坊谷
敷地 旧屬森村稱雀敷地谷一曰明神
中山 旧屬棚墅
西塚 旧稱敷地
天満 曰岡
久国 旧屬棚墅
横河内 棚墅
阪本 里一曰極楽谷三曰峡曰内谷曰本谷
横瀬 旧屬棚野
藤川 黄蘗
福川 福原地界故名里五曰中村曰宮勝示 多尾曰新居曰西谷
瀬津 福原以下六村 芦隷此 窪
墅尻 田墅
一宇 八重地以上二十四村旧生実郷
楮原 楮原

与河内村ヲ横ニアラズ伊与河内ノ略ト云

生実公ヨリ田野ニ村ヲ

土田　二千四百二十九町六段三十一歩五厘
二千二百八十三町一畝五歩
七五寛政

大谷上ホ二町四反五畝中ホ七丁八反七畝下ホ五丁九反五畝
水田上ホ十三丁九反水田上ホ十丁三反六畝下ホ九丁七反六畝
大松中上ホ雑水田下ホ雑水田之一分自餘

大原水田上ホ一丁八反一畝下ホ二丁三反一畝
江田七反二畝

陸田十五丁一畝
論田三ホ雑水田十四丁七反陸田十丁八反二畝

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

六又水田二丁八又水田二丁一町下田十二丁六又八町水田十二丁四又町中田十三丁二又町上田十四丁一又町中田十五丁下又町下田十六丁

新居見

陸田十五丁上田十四丁中田十三丁上田十二丁下田十一丁中田十丁上田九丁下田八丁上田七丁中田六丁上田五丁下田四丁上田三丁下田二丁上田一丁

田浦

陸田十五丁中田十四丁上田十三丁下田十二丁上田十一丁下田十丁上田九丁下田八丁上田七丁下田六丁上田五丁下田四丁上田三丁下田二丁上田一丁

泻上

渋埜

西塚

本荘

雑水田八下八田二雑十二又水五丁一丁九町下田丁九又四中上水丁下水十三水七又二十一丁四町下田十九丁三町上田十八丁二町下田十七丁一町水田十六丁

雑水田八上水田十二丁三又水田十一丁二又町中水田十丁一又町中水田九丁下又町下田八

六又畝　宮井　上ホ四分之一
五畝　陸田上ホ百十三
丁七又　沼江　水田十九畝
一畝　十八丁九又　八畝中ホ四丁九又
中山　三畝下　敷地　一上　森　上畝ホ　中角　上ホ
十九丁四又　七又二一又　七畝　十ホ一丁　十ホ一丁
五畝　水田上ホ十丁中ホ
二丁中ホ一又　十六又下九畝　下ホ一丁七又
八丁下ホ六又一畝　中ホ二又七畝　町六又二畝下　河原上ホ
陸田下ホ二丁八又　陸田七丁四又八畝　陸田ホ三丁八又　陸田二丁八又
二畝　陸田三畝　陸田二畝　陸田ホ三丁八又
八畝　陸田十四丁一又六畝　陸田九　横河内　三ホ雑水田四十二
三ホ雑水田十一丁七又　横瀬　三ホ雑水田二十三丁
二畝　陸田十二丁四又　陸田三畝　陸田十四丁
一畝　陸田三十丁九又三畝　陸田十五丁六又五畝　黄蘗　上ホ一丁
上ホ六又一畝　藤川　三ホ雑水　福川　三ホ雑水田十八丁
三ホ雑水田二十六丁　福原　雑水
六又畝　久円　上ホ五分之四
五畝　陸田二十三丁　自余中下雑水　棚塾
陸田四丁　雑水田三十一丁　雑水田十四丁
八畝　陸田十四丁　雑水田二十三丁
二畝　陸田二十五丁　雑水田二十七丁
一畝　陸田二十六丁　雑水田二十七丁
十二丁一又七畝　勝示　三ホ雑水田六丁
十二丁七又二畝　瀬津　三ホ雑水田二十四丁

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

田十五丁六反九畝陸
田十二丁八反九畝
又四埜尻陸田八丁六反八畝
十一丁三畝陸田
十三丁二反一畝
一宇三ヵ雜水田九丁三反一畝陸
田六丁四反七畝陸
田八丁六反一畝

窪三ヵ雜水田二丁七反
又七畝陸田二丁六反
又田埜三ヵ雜水田二丁八反
水田四丁六反
雜水田三丁五反
雜水田四丁八反
八重地雜水

租稅

一萬四千百八十八石六斗二升一合 元祿

芝生千百三十七石 宮井千七百七十七石 中角六百六十六石 星谷五百五十石 森四百九十石 敷地三百十三石 藤川四百九十二石 福川三百二十二石 勝示四百九十二石 福原百八十四石 窪三十九石 埜尻三百三十八石 田埜三百三十三石 樋原六十一石 一宇七十四石 八重地九十四石

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

戸口

四千六百十八戸　二萬二千百三十一口

雜戸四百二十三口

五千二百八十九戸　二萬千五百六十口　寛政

雜戸五百六十五口　寛政

酤戸 十一戸　寛政

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

山川

北山　在大谷村有花櫻一株高三丈掩映百畝日或稱櫻谷

勝浦河　源出瀨津曲流経福川藤川東流詘中廬之川自南入復東折東至今山北折歴飯谷本荘至西塚分流又合而注海福原川　有両源一出田埜（埜脱ヵ）合流至勝浦河水源長三千歩

大松川　在大松村勝浦河支流東北入海

菖蒲田池　在中卿村中洲径五十歩長三百歩許埜採捕此間旧称板屋居民千戸

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

菖蒲田川源出前原経中郷小松島至金
磯入海或曰旧勝浦河支流也
芝山在中田村左接海港右帯勝浦河頂曰日
峯臨眺数十里地理(利)闔国第一云為佳景
西麓称千代城東麓有
石槨三各方一丈許
千代松原在中田村負芝山中津峯西聳浦漵
東連市有豊太閤初址老松叢茂植
之数十歩間又櫻樹夾道春時美観今枯仁
良世子嘗請中院内大臣通(村)枝作用風曰常盤
木帛花乃老表仁保和勢天又一入廻千代松
原又林中注ゝ有礎豊林寺之址也又有石高
低成峯称九山八海又有石臼馬石以形伯名
甚東峙者呼為子取石俗傳昔海水囲漵家
児嬉遊之處也

小松渕 一称餘戸浦域
哀記作天子
繋駒松 在小松渕畦子初畔今枯
俗傳昔源義経繋其馬
辨天山 在金磯海濱一稱曽島旧海水環之有
濱木郷名美勿列及柯葉扶疏四時蓊
翠其根数十條極長自頂至地
繞如羅網右有石門潮水出入
烏帽子岩 在金磯高二丈四尺餘其頂似帽上
周四丈二尺中瘦如前下周十丈八
尺
帽子石 在辨天島東入海百
歩許形円如帽頂
装束原 在芝生村俗傳源義経侵
颶風以至被甲于此因名

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

千把嶽　在芝生通側或作船揚曰古此地瀕海石壁四丈許又有小千把

旗山　在芝生通東小山特立俗傳義経嘗建旗旄于此因名

芝生川　源出田浦清浄池至金磯入海径二十餘歩

天王谷　在田埜村有牛頭初居民相戒斷肉

勢潜石　在田埜山藩有穴如門可容躬以客

赤石山　在田埜東濱海乱石多甚下日勢合俗傳義経所憩之處

清浄池　在田浦清浄寺廢址

賓頭盧嶽　在新居見芝生之界

掛鞍石　在新居見春日初側

蓮池　在新居見水至清徹

神路山　又称杉尾又称勢見處源頼朝駐兵于此有峯二一称伏鉢俗傳頼朝脱冑于此以観其兵一称取峯在伏鉢峯西百五十歩有盤石上平四所有水名曰洗櫛又称鬢影相傳頼朝以照其容又有矢渕

敷地原　在西塚村落橋北毎歲九月為市又有赤石田中捉生

鶴島　在西塚村通右水田中特立之石壁環匝小杉楚々

蔓島　在鶴島東南差大而戴土

鞘川 有兩源一出洪埜一出洪埜西塚合流入大松川
莊至此
化頂峯 在本庄村丈六寺後山峯頂有石佛
三十二年十一月望新用意登此峯脫
袈裟以挂松枝羽
化去其松已枯
梅林 在洪埜村長田勝市家ゝ栽梅樹ゝ相望
三四千歩不絶花時可觀洋上村ゟ多
八多山 在八多村 公嘗狩此下有天
王林櫧樟爭茂ゟ出白櫻梅
中津峯 在宮井村距城府三里阪道千八十歩
左右花櫻為列西連八多山東望海門
其峯森邃前有大悲
閣其下為如意輪寺
鳴瀑 在飯谷長柱里石壁十丈余飛泉懸之下
有深潭清澄可鑑枚蔦跨其上有菴曰洞
女尤宜
避暑
小嶽 在長柱小嶽名林木菀然頂有牛王祠其
南有応潮泉称御甕石穴僅二尺冬夏不
涸土人就
而祷雨
犬返阪 在長柱勝浦河南崎嶇
枕水高六丈許頗険
星嵓 在星谷山中古木葱翠
中有瀑布高數丈右有
傳称空海祈星于此南麓有
起称男石又有巉嵓名曰懸
嵓溪 源出星嵓合于灰焼谷
二森溪南流入勝浦河
大宮林 在星谷為禁山中有
傳称源俊平習射于
此麓有迴溪名曰
石皆透徹如鏡其
石崖高五丈許俗
称石笑
及鈎
平坦處名曰身舘

跋伽又有弱
宮神户二林

象頭巖 在星谷西
以形似名

佛蹟山 在中山村石崖臨溪上安石仏十三
前有石門嶄然而起溪水擁之呼小疋
溪前後有僊衍左右有小石門其後石壁絶水
其北老杉成林ニ外積石為門徑通星谷上
他危石中起有草菴一僧守之 有

崔林山 在敷地村南雜樹散生其上平寛弥望
數十里滄溟南拆崔林寺上起其雄麗
圖郡
亜比

檜嶽 在敷地村上有怪
岩名曰獅子頭

清泉 ㄣ在敷地村水甘洌俗称
水飲有花櫻重瓣可観

山神溪 出崔山北流至敷地村入勝浦河又有
埜神砥石二溪及大溪坊溪ㄣ皆入勝
浦河 並在
敷地村

古川 在久国村旧有
洞今甚浅狭

星越 在横河内村俗傳在昔
客星経此隕于岩脇村

峽埜川 在阪本村又有
内谷本谷二溪

轆轤山 ㄣ在阪本村上有径
通夜石俗傳衆空海訣
坐之処此地霜
不降蛙
不呰人

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

瀧頂瀑　在藤川山石崖二十丈其水觸石乱墜或如落花或如軽絮或如薄霧或如瑠璃日光射之絢爛閃鑠輒成五色俗呼仏現其下怪石錯峙巌水清絶花櫻楓樹雑植滿山春秋二時最為美観山半腹有像就此流憩山称月頂旧跡有宝篋作瀧頂瀧頂窟　在瀧頂瀑北数百歩不可攀梯以登導者秉燭以入観者尾以従深二十歩石横出如一等形以注不甚寛一石人坐呼普賢石其窮壇其他奇状不可枚挙其下為慈眼寺

虚谷　在勝示村西名西郡神領界半腹有水常漲出峯村瀝之産稲最多

立川　源出上伊豆東流若干里宮溪自南入復東至中廬注勝浦河

鳴瀧　在立川山高二十仞古木葱蘢下有深潭以某懸流又有竜伏當以形侶名

山神林　在窪村林中有杉樹幹大六囲

埜尻川　在埜尻村源二一歩殿河内一出高山

田埜川　在田埜村長一里入埜尻川

市宇川　在市宇村

高山　國郡最高登三百六十歩許

南又川　在八重地村

出

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

北又川　二流皆出清水

蘭梁

神田瀬橋　在小松島

落橋跨鞘川紀能遠敗走経此因名今為石梁

検験所　在大里浦竜港封人二批検験所　其先朝鮮人被因而至

批検験所　在小松島根井

土産

溪鰛 勝浦河出大者至一尺三寸歳獲数十萬

一代 即郷名伯鰕扁長尺余産溪中 索訥婆吏 即郷名一名索唑勝浦河出多状伯石伏奥而細小長二三分蒼色有黒点仲夏多聚味甘美

鰕奥 和名花宴一種赤額者呼護胡十花宴即鰕奥闕奥蒼黒色差小者俗呼養納其花宴

鯉

鯽奥

泥鰌 郷名独直羊鳥

鮒魚 郷名索美識羊鳥胡紅

鰻鱺

海鰻

牛尾魚　帶魚
鰯魚　海鰌
鱠殘魚　和名識魯胡紅潔白如雪又帶黄形長味美者称氷魚
王餘魚　鰯魚
鰯魚小松島出郷名席眉坐珂秋吉域出大如針水著色在水亜腓唯眼両点黒耳以塩水煮暴乾者名鷲毛脛　撰尾魚
青鬱　竹筴
烏賊　竹麥

牡蠣　寄居虫
除小松島出土人國之桶中和名甲寵納郷名陰鳥納生潮擾之肉乃出淘以去泥及殻亦和以泥以木為醢味香脆　毛蟹
蠶勝浦河出　蟲郷名治陰女有二毛最多大者八九寸
乾苔　陟釐
鳩　紫菜
欅　
豫章　
地腎小松島出最多　枇杷
松蕈寺庄出

白楊梅 中山出　蜜柑 阪本出

薪生夷卿諸村出其品擬柞櫪松也鬱之于城府載以平底船長三丈許濶六尺許舳有又口舟人容棹以避危石　樵柴諸村出

梅渋埜泻上二村出　硯材 土名木尺一尺白薯二品藤川最多

細且黒

猫撮石 吉川出色蒼質兔斑紋或成龍形

白沙 在大原大倉称雪浜以有白沙也吏守之者如采者如麥者如豆者又有如亂者最奇

細沙 伊紫吉 小松島根井出作藍飼者和以此沙即卿名筆細而堅実四瓣白花

遏珂 楷樹類土名美木連及高丈余不花而実梅岡蛮人呼安墨婆墨侄即卿名筆似落霜紅三四月開小菩伊蜜美陰識

不灰木 渋埜出　黄土 中田出

黄蘗 黄蘗村域出目名疋

喜式歳貢三百斤

席索訥吉 即卿名筆似落霜白花草瓣其材稠堅為剣柄

羅漢松 卿名古索買吉　邏柚 納子卿名花

珂眠趨免 即和名冊一寸余長二三尺文筆四面有皺文土人呼為家和歌云秋深作杖堅敦無比夫木集藤原為家山乃夕霧許呉免尓已毛色也馬豆加波白

良
武

玉髓

製造 皮鞋中卿出

樟腦寛政中命匠
孛院始製之

鼬鼠沿河諸村以
淺鼯腸製之

代赭石瀬津出

翦云中卿出

石灰土川出礦有蒼白
二種即硯材之余

佛刹

地藏院 在大谷村旧稱觀音寺安千手觀音像
元和二年命移真像于城府勢見山觀音是也乃以真快侍地藏像為主俗傳元暦中源義経師至衆懼而竄其地曰義経鑿真馬不敢剪伐寺田及地租免注ㇾ有文明字今缺有麥寺二曰華藏曰常照

延壽院 云在大谷村延宝七年賜林方六十支

持福寺 在大松村緑小松島地藏寺

宝聚寺 在江田村云緑小松島地藏寺

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

桂林寺　在中田村以荻爲祖源持常重造
安覩音像桂田二百石及林荻原古六
居院而廢絶元和中荻長俊重造長俊倫和人
所傳有法華經持常所捨寛文中歸小松島地
藏寺地三百歩陳其稅旧東老坊曰成頼寺曰般若院曰東
見寺曰四福寺曰明音寺曰竜蔵寺
相傳郡蔵寺有弁才天女初今金磯所置是也
成頼寺　在中田村修真言
坊　在中田村修真言管八幡西初又有廢
寺一曰豊林寺在千代松源林中礎石存元
和中荻尊海居此
宝蔵寺　在中御村一称豊林院昔日吉初安
豊太閤像寛永十二年荻龍厳居此賜

手書今隷小松島地蔵院寺之
天満寺　在中御村仁和寺末陳地
寺寛永十七年爲庄丈六
密厳寺　在中御村歸事安
百七十支許有石佛伊注：出火
地蔵寺　在小松島采地二百八十石八斗余天正七年
十二月吉成長久高市正見連署捨地
八百支元和二年十月余山内松軒寺澤六右
衛門爲陳地寛永十七年九月六右衛門
故又有観音寺阿弥陀寺寺宝性寺真福
寺等四寺般若寺六宇並隷地蔵寺
光善寺　在小松島修一向荻宗
忍置宝忍即安宅宗之
四福寺　在日開埜村隷
小松島地蔵寺

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

藤樹寺　在日開埜村緑手安仁和寺安芳師像昔有藤大三囲蔓延教畝今枯

吉祥寺　在日開埜村緑手安仁和寺

文殊院　在日開埜村又称地蔵寺安芳師像古木優婆塞居之緑南部三宝院

恩山寺　在田埜村旧称密厳寺安芳師像古木環繞下瞰原埜天正中羅兵燹瑞雲公命造宋地一石六斗修真言

大乗院　在田埜村天王谷優婆塞居管牛頭初

福成寺　在田浦村緑小松島地蔵寺

正福寺　在西濱村六緑小松島地蔵寺

高松寺　在西濱村紀成直置旧作光勝元文中祝萬元重造蔵淳和法帖其刻左稽良帰化僧隠元所齎来為時李僅九十二葉又蔵朱漆柱杖紀伊毋羽氏橲柄也今緑丈六寺

神光寺　在浜上村緑城齊観音寺

長谷寺　在法花埜村六緑観音寺

新蔵院　六在法花埜村細川氏置優婆塞居後沒篠原自遁之和泉天中帰齎自遯書以謁瑞雲公又有別荘有名東郡北浜稱不老閣

金蔵寺　在八多村修真言

長楽寺　六在八多村窪里修真言

西福寺　在八多村犬飼里修真言

丈六寺　在本庄村山名瑞麟結構壮麗永正中秋全岳自越前至僧曹洞第二世開基

遁去不知所適俗傳羽化去源城之重造持隆造瑠璃殿三好氏捨采地十五貫地二町八又及花瓶幕弓矢草次之阿以田浦吉田山今采地二百石更加賜十石舍以祀吾先弓安親音像長一丈六尺藏豊臣太閤支院首清久寺知藏斎方四寺

田林寺　与在本庄村紀重遠城址緋小松島地藏寺

成福寺　在宮井村修真言

如意輪寺　在宮井村中津峯阪通千八十步甚上有大悲閣其像永正中小松島舟人助石其所置慶長十四年以山林　南峯公賜月俸三口修真言

青蓮菴　在宮井村旧称真国寺殖遠世捨采地二百石有支院六今廃

百田名岡坊奥坊谷坊者遠洲七寺与廃天正中秋峯雅作小菴而居賜栗二十石負享中秋瑞照始廣戒律教以故賜山林除租四石八斗

法四寺　与在宮井村丈六寺支院秋月山居此

大匠寺　在宮井村廃城址秋冲室置秋石峯与居安大匠夫人神牧賜山林除租

醍醐寺　在飯谷村隷地藏寺

洞支菴　在飯谷村長柱瀑布側醍醐寺支院藏古木版長六尺余博六寸字磨滅相傳

釈空海真蹟又有
知足天院今廃
善入寺 在沼江村
修真言
胎蔵寺 与在沼江村
隷雀林寺
慈林 在今山村与
隷雀林寺
観音 在中角村与
隷雀林寺
神宮 在星谷村与
隷雀林寺
星谷 与在星谷村隷雀
十四寺捨田十五石後絶
雀林寺 在敷地村修真言山名雲鷲地蔵祖師
ホ諸堂旧丽如畫子院六日石室日室

積日北室今廃日受法日不
廃蔵古鐘有異紋三好氏捨
十八石年寛永二十貫今采地四
十八寺禁採樵
観正寺 与在敷地村
隷雀林寺
妙音寺 在中山村与
隷雀林寺
四明寺 在久月村与
隷雀林寺
四城 在棚埜村与
隷雀林寺
妙樂 在横瀬村与
隷雀林寺
明光菴 与在横瀬村
修禅

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

宝性寺　在与河内村
　緇素林寺
長楽、　在阪本村
　修真言
薬師、　亦在阪本村
　緇素林寺
慈眼、　在藤川村阪道三千六百歩境幽窮清
　有滝頂窟及瀑布祖師坐而牲岩洼、
　挺生藏木枝一枝古色蒼老皆既剥落
　相傳空海所書素林寺別院相距一里半
金輪寺　亦在藤川村
　緇素林寺
普門、　在勝手村亦
　緇素林寺
願成、　在福原村亦
　緇素林寺

黒松、　在田埜村緇丈亦寺号
　松黒色者蓋海松也
光明院　在田浦村又称真道寺
　緇三宝院安覩音像蔵

古蹟

芝山墓　在中田村稱千代城（カニル）盃源藤改所掬享保中石棺出

藤原兼時宅址　在中田村落西

渋埜墓　在渋埜村手無安掬此

熊山墓　在李庄村旧称櫻間城紀成良別墓後源員手無六掬

田林寺管　在李庄村水田中小山特立者此紀之今為寺曰田林寺手詔稱三面泥濘一面有湟

岩井墓　麻殖遠江守掬此領千四百貫其址為寺即大迺寺東有子城曰亭（テニノヲル）

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

天神山墨　在新居見村文治屋家呼称永禄中源吉則与称城源長政別舘在飯谷渡口竹林中

山分墨　在飯谷村奥名称古城源長政称此今為田吁櫓下堀河的場

今山墨　在沼江村藤原国村称此其麓今称城端

墨谷墨　在墨谷村源長政別墨今有八幡初称宝殿及蓋置武庫之處注；穿地得兵器云有射場上有測称矢潤

中山墨　在中山村藤原国村称此

中角墨　在中角村中角六郎右衛門称此今為田呼城添城後

山分墨　在棚埜村源俊手行営今為田曰櫓下曰堀河

塚墓

七人塚　在芝生村

吉成出雲守墓　在西塚村正福寺

越智通春墓　在浜埜村

源持隆墓　在丈六寺識田

徳雲院嶽麟

平忠之墓　在丈六寺中門外高二尺五寸

識曰新開遠江守入道道濬喜

松田新兵衛墓　在丈六寺大門中為

其主忠之嗣死于此

韓人墓　文禄中朝鮮之役獲韓人三人

賜之仁木又五郎死葬于此

荒墳　在新居見村天神山麓俗呼塵黒塚

荒墳在久見村土人呼櫻塚

安部逢殿亮碣　在藤川村民家側字塵滅不存

氏族

長人之祖　日本紀宝亀四年五月辛巳阿波国勝浦郡領長費人之言言庚午之年長直籍皆着費字曰茲前郡領長直夫波訴改注長直天平宝字二年国司治田之日以無記験更為長費宮判依庚午籍為定新撰姓氏録云長公大泰年智神之児積羽八重事代主命之後也人之祖長公之後也

長大富賣　三代実録貞観十三年閏八月四日節婦勝浦郡人長直大富賣叙位二階免戸内租　表於門閭

紀成良　民部大輔敬信寿永二年九月緒方維義敗　安徳天皇御勝浮迂幸于皆崎

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

公卿皆人法夫以況士何御船至柳浦謁宇佐
祠紀光秀奉船百三十余艘遂至讃岐菊池氏乱
益運阿波之材造行宮于讃岐山田郡屋島城
良将兵一千以至四州将士悉応乃為阿波守
文治元年降源氏一云寿永二年六月奉平氏
之命造行宮于屋島令郡司助之貯糧食積薪
菊以俟行幸或曰其斉成安正十年為長曽我部氏所殺
紀能遠 稱櫻庭介成良之男
能遠乃捨 迂尉至直懐民家以捍其元暦二年二月源
城而逃 能遠攻陥城渫急攻之
紀教能 私田内左衛門成衰記作成直又或作
重則成良之長子仕平氏攻河野氏元
暦二年遂赴屋島伊勢義盛説
既勝浦尊候今降我照欲相見于教能驚愕
乃

國衰記ニ沙カ父民ノ文伸ノ頸ヲ取テ降人ニ参ス擒ラルヽ天勝浦ヲ下ラントスルヲ父ノミ故ヲ以テ偏ニ助ケ給ヘト申請ス

脱文乎

降

藤原近家 稱近藤古師光卜子拠天神山墨
源廷尉之至勝浦也使伊勢義盛説
而降之就而見廷尉問地名昔曰勝浦問衆嶺
曰不過一千曰何嶺也曰能教攻伊豫其余乃
分守各所廷尉聞而大喜以為先鋒

源長政 大状作吉武一作俊居飯谷其先出於中
渋路福良浦云其族七曰依ミ木曰开羽曰丈
川曰伏田曰成瀬曰木戸曰服部天正四年迎
源真之舘之于开生山中今源教元大栗田村
栗田宇右衛門中角古郎左衛門尓為警衛
子孫称右衛門与衛門孫基称与左エ門葉斉在
森村蔵檜二枝剣八口弓一敷二棚埜村云其

平蕪安　称新開居渋埜村忠之之族姓藤原居田安宅某浦仕三好氏

源光則　称赤澤云三衲服為僧小笠原氏之族居新居見村子其称鹿丞天正十年中冨川之役戦死其族七日前埜日高田日三間日安津日前埜日高田日三間日湯浅日大埜

源吉則　居新居見村目以氏新居蓋赤澤氏之族

源国重　称李庄太郎兵衛山城其族五日木下日小林日櫻井日梅田日来原今八多村来原氏存

藤原綱清　稱高田左馬允子其稱新四郎孫其稱安宅新四郎世居大杉村為處士遠孫為里正其族七日細川日秋月日棚中日之石日加田藤原国村　称大栗左近政吉之後居沼江村其族七日内藤日澤郎日芝田日阪田日飯尾子其称熊右工門政氏大木孫其稱次郎左工門日磯谷源右衛門居芝生村仕源勝元死節子孫猶存書農源藤政　称小命一作小街子居大原村小御子里又芝山千代城者小命墳其族四日水埜日西迎寺日三浦日寺尾

鹿草出羽守　或作岩草初称彦太郎居田浦北原里其先其亦稱彦太郎建武四年閏七月在越前黒丸城与細川阿波守共代源義貞ニ中流矢而卒於是愈顯出羽守負

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

治中奉細川氏命至伊豫太守
又源成助欲攻細川氏也出羽
仲邑子以元木某為子某稱右
蜂須賀人因初大粟山之役
莊右工門有命娶益田氏之女
也肥前島原之役奉命為軍裝
行賜四千五百畝及竹林除丁
福聚之貢尾張長島之役
戰死有遺腹才
藏君居高尾
村賜五百石

寺澤六右衛門 世居小松島
田豐国廟時隨
瑞雪公太悅分食以賜又命与山内
一豊入阪高人新右工門截材于殿河内山指
而逃目賜六右工門乃運輸以當之謹獻
餘金

公返賜固辭更賞以大木〔ママ〕峻徳公嘗命截材
于中島商人献金以乞六右工門請献條銀萬
鍛而邑謹陽雲公聞之曰吾謹之既而大有
利請献金公不聽曰是謹人之幸也公薨乃
剃髮稱宗育與源公再杜鴛献三條藩公真
蹟勢詰聽佩刀賜服者數享保中真斉弥六郎
掌所執所献銀二千八百
餘元禄八年賜月俸十口
多田某 其後有喜右工門慶長中居飯谷為里
曰又有助右工門者就金磯作墾田
吉成長久 称對馬守又称出雲
藏天曰七年文晉子
賜禄四十口其斉
在西塚村為里曰
猪防某 稱九郎右工門旧居井関谷城後移猪
山下因初墾開大谷村遂移居世為里

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

藤原兼時　稱悉地居中卿村其先紀伊熊野人
　莊　　来仕細川氏其族三曰奥田曰森曰
　埜

友兼基　稱八太夫播磨人冒初淀弓鷲巣
　　於八多村其田称衣兼基其裔世為里
　　正

安部某　称進殿助伊豫人宇佐之裔居勝示
　　村壓閑卑某従者三十六人安藤彦九
　　郎者為之長毎月朔入賀彦九不至衆不敢
　　入分地居養源長政之子以為嗣称佐古右
　　衛門冒初命掌阪本以西租稅其裔猶存

越智通春　称河埜某民部大輔通久之子軍敗
　　来居渋埜之和七年七月没其裔亡
　　戸在渋埜村又在阪本村家蔵甲及槍

森監物　居森村仕細川氏裔并生行営

羈旅　源義経　正五位上伊豫守兼二年二月関東兵討平
　　朝之子元暦二年二月関東兵討平
　　氏義経為啓行十六日暴風起船多敗夜半解
　　纜黎明至勝浦餘戸浦船唯五隻卒一百直核
　　紀能遠城枕西藤原近家降命為卿導経中山
　　至讃岐屋島放火攻之平族驚惶泛海十九日
　　天皇迁幸次志度義経
　　復犯之乃幸長門彦島

方外　釋周勝　姓藤原清水谷氏之
　　族也十三落北亟相義満源公受其

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19
ガラス使用

阿波志巻之十

後遷常居右右帥素婬冨貴欲遊四方丞相不許一夕竊遁去名山大刹画不詧跡阿帥不得已而還応永中丞相叔瑞芝菴為遷居之地嘗奉丞相命来剱桂林寺又主天龍寺迁鹿苑院永享元年居右禅寺相国寺仏殿成請帥説法四年冬源頼捨西山別墅建宝性寺延帥居之七年二月寂

釈原古 名誓姉三条卿姓源細川氏之族也住平安寿持相国寺剱相国徳済軒又居冊波自号冊陽三叟文明七年乙未三月十七日終于桂林寺

釈宗忍 初名宗之安宅冬康之子元亀中拠摂津福島城于内府攻之走于紀伊熊野後隷小松島寛永中有感釈服為僧有三子伯右乎漪仲彦右漪門並苗斉存叔浄智為法嗣

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

丑
12
19

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

丑
合 6
19

国立国会図書館　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『阿波志 12巻』 請求記号 丑-19

ガラス使用